

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会へのお誘い — 南国，鹿児島市へ —



平成 25 年度放射線安全取扱部会
年次大会実行委員長

百島 則幸

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会（第 54 回放射線管理研修会）は、九州支部の担当で、11 月 14 日（木）、15 日（金）に鹿児島市市民文化ホールで開催いたします。年次大会の案内と参加をお誘い申し上げます。

紆余曲折はありましたが、前九州支部長の福德康雄先生（鹿児島大学）が会場の確保に奔走してくださり、会場と日程を決めることができました。年次大会実行委員の選定に当たっては、九州・沖縄で活躍されている RI 施設・放射線関係者をお願いすることとし、2 月に 17 名の実行委員予定者による実行準備委員会を開きました。4 月に入ってから、充実した年次大会とするために、大会プログラムの中身について議論を進めるとともに、特別講演やシンポジウムを具体化する準備を進めてきました。大会プログラムは、いずれも参加者の皆様に興味を持っていただける内容を提供できるよう実行委員が案を出して企画し、準備を進めたものです。

これまでの年次大会では、文部科学省の放射線規制室による特別講演が行われてきましたが、放射線施設の監督官庁が文部科学省から原子力規制委員会に代わったことで、これまでのように講演を引き受けていただけるかどうか分からず不安がありました。しかし、これまで同様に特別講演をしていただけることになり、初日の午前中に特別講演Ⅰとして実施します。

メインテーマは、「どら、きばんなら！共に」

（よし、皆で、頑張りましょう）にしました。放射線施設の監督官庁は原子力規制委員会に代わりましたが、放射線取扱主任者や施設管理者が行っている安全管理の内容に変更はありません。規制側と私たちは新たな関係をこれから作っていくこととなります。放射線・放射能の安全な利用を目指して、規制側と利用側で協力していく気持ちをテーマに託しています。鹿児島市での開催にふさわしいメインテーマだと思っています。

東京電力（株）福島第一原子力発電所事故から 2 年以上経過しましたが、事故の影響は依然として、放射能汚染や心の不安として続いています。心の不安を解消することは容易ではありませんが、シンポジウム 1 では、母親、子供が何を知りたいか、何を知らされていないかについて皆さんと一緒に考えることで、今後の活動の一助になればと思っています。シンポジウム 2 では、放射能汚染に関する最新情報を整理することで“福島は今”を多面的に捉えます。シンポジウム 3 では、魅力的な放射線施設への展開のための方策を提供する意気込みです。

日本近代史が専門の原口泉氏による特別講演Ⅱ「明治維新と現代日本」は一般にも公開します。会場からは窓越しに噴煙を上げる桜島を見ることが出来ます。南国，鹿児島市への皆様の越えしを実行委員一同、お待ちしております。

（九州大学アイソトープ総合センター）